

# QSK GENKI I

2010年  
7月23日



発行：九州障害者定期刊行物協会 (QSK)

〒812-0069 福岡県福岡市東区郷口町7-7  
定価100円



編集：特定非営利活動法人

北九州自立生活センター

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借2丁目5-19  
自立生活センター (事務局) / (093) 541-5000  
小規模作業所GENKI / (093) 541-0130  
介助事業所GENKI / (093) 541-0137  
共通FAX / (093) 541-5770  
E-mail: cil-kita@hyper.ocn.ne.jp



## 本号の主な内容

- ◎目 玉 第9回定期総会
- ◎事 業 メインストリート・プログラム
- ◎エッセイ 全国自立生活協議会の総会について  
内部研修について  
ものづくり、モノレール利用体験会
- ◎その他 新人紹介、わっしょい百万夏祭りのPR  
介助事業所GENKI

**継続・新規センター  
会員を募集します**

第9回通常総会について

# 2010年度の 総会を終えて

代 表 林 芳 江

去る2010年6月19日に当法人の定期総会を行いました。今回はいつもの事業報告・決算報告と事業計画・予算の審議に加えて、2年に一度の役員改選と定款の変更等の審議もありましたが、活発な意見が交わされたとは行きませんが、昨年度を振り返っての報告と、これからの事業や運動の取り組み、そして課題となっている事などを、一通り出席していただいた会員さんと分かち合えと思っています。

その中でも幾つかの要点は、現在の馬借事務所に移ってから諸事情が重なって厳しい財政状況となり、その改善が大きな課題としてあります。法人の特性上、儲からずとも事業や活動の採算が合い、維持できなければなりません。それに関して昨年度は、バザーの開催なども含めて、かなりの努力をした成果が現われたのか、赤字は随分と改善された決算で報告することができました。まだまだ安心できる状況ではありませんし、法人化してまもなく10年、事業経営は素人ですからという言い訳ももうできません。社会や経済情勢も激動していますが、それでも、何とか財政的な困難を乗り越えられるよう引き続き努力していこうと決意する機会にもなりました。

また、定款変更については第三種郵便の規制が厳しくなったことが一つの理由です。皆さんにお届けしているこの会報GENKIは、心身障害者用低料第三種郵便物制度を使って低料金で発送しています。この制度が商業用のダイレクトメールなどの郵送に悪用されたことが昨年大きなニュースになりました。このあおりを受けてしまったわけです。その規制の一つが発行の総数の8割が料金を徴収していることという条件です。つまり啓発や交流のために安易に配ってはいけないことを意味します。当法人は会員で成り立つ組織ですから、できるだけ会員としての参加をお願いし、正会員や賛助会員の会費には購読料を含みますが、年会費が払いづらい人もいます。そこで今回「購読会員」を新規で設けて、会報GENKIを届けやすくするために、会員枠の新設と定款の変更が必要でした。このように前途は多難といえるかもしれませんが、一部理事の新旧交代も経て、役員スタッフ一同、今年度の事業や活動を楽しくまじめに取り組んで参りますので、皆様お力添えをよろしく願いいたします。

## 「全国自立生活センター協議会 総会」に参加して

永松 啓子

春から初夏にかけては、総会シーズンといってもおかしくありません。その中でもちょっと足を伸ばして福岡市の天神まで行ってきました。

天神の『アクロス福岡』は、中央公園に面した場所の、ステップガーデンの建物で都心のオアシスと言われているそうです。そこで5月23日～25日まで、福岡で行なわれた全国自立生活センター協議会・総会に行ってきました。

私たちスタッフはJRに乗って博多に向かい地下鉄で天神へ行き、全国各地から来た障害を持つ仲間たちと一緒に、アクロス福岡の会場に着きました。

一日目は、障害者制度改革の行方を聞き、地域移行を進める事について私なりに人権の大切さを感じました。夜は、名刺交換なども行なわれた交流会もあり、言語障害のある私にとっては、どのように会話の中に溶けこんで行けるか戸惑いもありましたが、同行したガイドヘルパーさんの手を借りて心強く動くことが出来ました。その日は仲間のスタッフとホテルで一泊しました。

翌日は、「今こそ立ち上がろう！ 私たちの手に人権を」という“ワークショップ”の中で、①入所施設の人を地域にもどす、②就労支援の問題、③教育の問題、④監視機能の四つの事を、覚えていたほうが良いと言われましたので、ヘルパーさんに書いてもらいました。午後からは、私の聞きたかった「自立支援実践報告」の話をパワーポイントで見て聞き、私自身の知らないことが、まだまだ沢山あるのだなあ!?!と感じました。

私には一泊二日の研修でしたが本当に意義のある研修に参加できて良かったです。



内部研修について

## 障害をもつ人の 虐待防止ワークショップを受講して

－ 佐藤 カヨ子 －

4月30日、北九州市立生涯学習総合センターにおいて、虐待防止のワークショップが行われました。自立生活センタースタッフを対象とした研修でしたが、内部研修にはもったいないような内容で充実した研修でした。

講師には全国自立生活センター協議会の岩本肇さん、佐野武和さん、樋口恵子さんの3人がはるばる全国各地からおいでいただき、様々な場面のワークショップを熱心に指導して頂きました。

この一日を通して、障害を持つ参加者持たないスタッフ双方に気づきや、学ぶところが多かったのではないかと思います。

私はこのようなワークショップには、初めて参加しましたが、事前に予想していたのは「重い内容で暗い気分になりそうだなあ…」というものでした。実際、自分の身に当てはまる部分もあり、受講



ワークショップ風景

後、数日間は子どもの頃のこと等を思い出し、やや重い気分になりました。私の場合は、ネグレクト（無視、否定、放置）で、20代後半に虐待であったことに気づき、30歳を過ぎてから定時制高校に通った事が子供・青春時代のやり直し、自分の価値を取り戻すきっかけになったような気がします。

今、虐待を受けている人、とりわけ子供たちに言ってあげたい、「あなたは決して悪くない！勇気を持って助けて！と言っていいんだよ」と。

－ 中前 裕樹 －

【虐待防止プログラムは人権侵害に立ち向かうための一つの道具です。】

この言葉から始まったワークショップは重苦しい雰囲気にも包まれるのではないかなという心配がありました。しかし、3人の講師の方が明るくにこやかに進行されたので、その心配は取り越し苦労に終わりました。

内部研修について

そもそも「ワークショップ」という言葉が、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルとして定義されています。以前は「仕事場」「工房」など共同で何かを作る場所を意味していたのですから、これも時代の流れなのだなと感じます。

ロールプレイング（役割演技）をする中で、健常者＝加害者、障害者＝被害者のシナリオに、「こんな対応も虐待になるのか」「日常生活の中でよくある光景だな」と感じるものが多くありました。そんな中、冷静に受け止めている自分がいました。

それは、今回は障害者の立場で勇気を持って主張することが目的で、それに気づくことが健常者の方の目的だったように感じたからです。



●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●●

今回のワークショップに参加したことで前よりも障害者にとって「つらい」と思えることの理解が深まったように思います。

- 登録ヘルパー S. K -

虐待防止ワークショップを通して、虐待について改めて考えさせられました。絶対にしてはいけないことを改めて感じ、ヘル

パーをするうえで大切な事は、障害者や高齢者の気持ちを考え尊重した接し方や話し方が大切だと思います。また、嫌な時に嫌だとはっきり言うことも大切です。そして、1人で悩まずに相談できるような環境をつくることも、大切なのではないかと感じました。

そうする事で、虐待や差別をされても仕方がないと思い、辛い事を我慢する方が減り、虐待も減るのではないかと感じました。

このような研修を受けた事がなかったのととても良い勉強になりました。これからの仕事や、仕事以外の場所にも役に立てていきたいと思っています。



メインストリート・プログラム

## 嬉しい悲鳴に感謝 !!

永松 啓子

今年度初の、第1回メインストリート・プログラムは、電子マネーの活用法を障害のある仲間に理解して欲しくて、『電車に乗って、イオン八幡東へ行こう!!』と企画を立てました。今回は障害のある仲間の参加は少なく、それに比べて障害のない参加者やボランティア参加の学生さんが多く、早めにボランティアの締切りをしました。

当日の朝、6月20日は梅雨空の中、小倉駅マルチビジョン前には51名の人が集まってくれました。班構成もスタッフの意見を加えて、こちらの方で5班に分かれて頂きました。



オリエンテーションを早めに済ませ、行きの電車だけは時刻表に合わせて、小倉駅のホームでは5番ホームと7番ホームに別れて、電車に乗ってもらいました。スペースワールド駅で下車し“イオン八幡東”へ。

私の班は私を含めて10名で「イオン八幡東」に着き、すぐに班の人たちと話し合いをし、3階にあるフードコートに一直線!

少し早いと思いましたが、それぞれ会話をしながら好きな食べ物を買って、楽しく「ランチタイム」を過ごしました。

その後、帰りはバスに乗って帰りますか?それとも電車に乗って帰りますか?と問いかけて見た所、全員電車が良いとの意見でした。

帰りの待ち合わせ場所などを決め



メインストリート・プログラム

て女性1人の参加者には、介助経験のある方と女子学生2名の計4名でイオン内を見てもらうようにしました。残った私は介助者と、よく気の付く学生さんと一緒に行動しました。途中で他の班の人が何をしているのかが気になり、そっと見て回り1人の参加者は本屋でボランティアさんと本を見ていたようで、もう2人の参加者はボランティアさんとダイソーの中で、何か探しているようでした。結局、イオン内では電子マネーを使う人はいなかったようです。待ち合わせ場所の博物館側入口前では時間通りに合流し、行きと同じように電車に乗って小倉駅に帰り着きホッとするのもつかの間、ふと駅の構内から外を見れば危機一髪…雨が！参加してくださった皆さんやボランティアの皆さんは、雨に合わず帰る事ができたかなあと心配もしましたが、第1回メインストリート・プログラムはケガもなく無事に済んで良かったと思いました。

後日、聞いた話ですが、スタッフの2人がワオンカードやSUGOCAカードを使って買い物をしたそうです。今後は、障害のある仲間たちにも自分の障害に応じて活用してもらいたいと感じています。



次回も、皆さんのご参加をお待ちしています。



黄色いレシートキャンペーン

## 黄色いレシートキャンペーンに感謝

大石 厚生



去る4月29日に贈呈式がありました。各団体が集まってイオンの担当者の方からギフトカードを頂き、そのあと参加者全員で写真を撮りました。当センターではそのカードで電気ポットが壊れたので、新しいポットと、私たちの作業に欠かせない印刷用紙も買わせてもらいました。その商品は大切に使用させて頂いております。

5月11日には新人(宇山くん・中前さん)2人と行き、「お願いします」と声を掛けると、レシートを投函ボックスに入れて頂ける人もいました。初めて参加したスタッフの感想は、「このキャンペーンはお客様の協力があって初めて成立するのですが、みなさん協力的でした。中には自分の応援したい団体を探してレシートを入れている人もおり、しっかり認知されていると感じました。火曜日と重なった影響もあったのかもしれませんが」とのことでした。

6月11日にはもう一人の新人西平さんをつれて行きました。多くの団体が一緒にキャンペーン活動をしていたので、私達の声を通りにくくレシートもなかなか私達のボックスには入れてもらえませんでした。でも私達のことを知っている人は笑顔で投函してくれていました。はじめて参加したスタッフの感想は、最初は、大きな声を出すのが恥ずかしかったけど、だんだん慣れて、声を出すことができました。たくさんの方が、レシートを入れてくれて嬉しかったですとのこと。

最後にイオングループさんと当センター投函ボックスにレシートを入れていただいている皆様にとっても感謝しておりますと共に、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。





## 見つけた、僕の課題

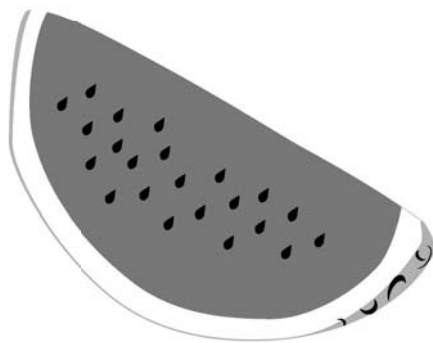
大石 厚生

僕はJIL総会の2日目と3日目に参加しました。今回は、主に2日目のことを書きます。

はじめに差別禁止条約について、3人のパネラーの話を聞いたときに、自らの体験と重なりました。僕は障害を持っていない子供たちと違って、幼いころ施設と幼稚園との往復、それに施設に戻ったらリハビリの毎日でした。夜になると、見たいテレビも見れずに先輩が見てるテレビを一緒に見るしかありません。寝るときには寝ている間に足を強制するためのナイト装具を履き、その痛みと、おばあちゃん恋しさのために毎晩泣いていました。とても辛い幼児期でした。親の愛情が一番必要な時期に、施設に入所するという選択肢しかなかったということは差別だったのでしょうか。そんな僕の経験と重なりました。3人のパネラーも僕と同じような体験をしていて、障害を持っている人はみんな僕と似たような道を歩いて来ていると感じました。

昼からはヘルパーとの関係性をテーマに、事例を元にして各パネラーが発表しました。その中で兄弟二人とも知的障害ですが、自立を支援するために、まずは兄の一人暮らしを支援している内容についての詳しい話がありました。僕はこれこそ<sup>注1</sup>CILの仕事だと思い、この人たちみたいに自立への応援の道具として、<sup>注2</sup>ピアカンや<sup>注3</sup>ILPを用いて、支援をできるようになりたいと思いました。

今後の僕の課題としては、親が亡くなる前に、もう一度ひとり暮らしを経験していかないと、他人のサポートなど無理だと感じました。それにはまずメンタル面が弱いので、そこから立て直さないといけないと僕は思いました。



注1=自立生活センター 注2=ピア・カウンセリング  
注3=自立生活プログラム

モノレール利用体験会のエッセイ

## モノレール体験 を終えて



宇山 大輔

5月20日の木曜日に、自立生活センターの小川さんと福祉用具プラザの職員の方といっしょにモノレールの研修に行ってきました。

朝、僕と小川さんは福祉用具プラザに集まって職員の村上さんさんに挨拶しました。そして、その後この研修の目的について村上さんからお話を聞きました。この研修の目的は、一人でモノレールに乗れるようにすることと、一人で外出することです。

且過駅に行ったら、切符を買おうと手を伸ばしましたが、券売機の位置が高すぎて一人では切符を買うことができませんでした。もう少し、僕は券売機の高さを低くしてほしいと感じました。そして、改札口の切符を入れるところも大変でした。穴が小さく、切符がなかなか入りませんでした。

そして、もう一つ困ったことは、車両の中で車椅子用の駐車スペースが1台分しかないことです。車椅子が2台も入ったときに、2台のうち1台は通路にはみ出していました。僕はお客さんに申し訳ないと思いました。もう一箇所スペースを作ってほしいです。

改善してほしいところもまだありますが、僕は普段から仕事の通勤でモノレールを使っています。帰りの車窓から見える足立山の山肌が夕日に照らされてとても美しいです。

この研修に参加して勉強になったことは、一人で外に出るということは自立の練習にもなるということです。そして、さまざまな経験にもなるからです。

もっと外に出る障害者が増えてほしいです。



わっしょい百万夏祭りのPR

# わっしょい 百万 夏まつり

2010・夏の目玉商品は、グリーングラスで～す。

当センターでは、昨年ひきつづき 8月7・8日に、ヘルパーさんやボランティアの皆さんのご協力を頂いて、わっしょい・百万夏まつりのふれあい広場にて、オリジナル作品を、出店することとなりました。

昨年好評だった、しおりに加えて今年は、カラー・ジェルポリマーのグラス入り、観葉植物（グリーン・グラス）と可愛いデザインのコースターをセットで販売致します。コースターは、2WAYでピアスや指輪置としても使えます。



その他、空クジなしの、クジ付ジュース・お茶なども販売いたします。暑さに負けずみんなで頑張ります……

皆さんも、夏まつりにお出かけの際には、是非お立ち寄りください。

## いち早く商品紹介 ☺



私も出るよ!



ピアスも置けるよ

新人紹介

# 新人紹介

新年度より4名の新人を迎えました。ここではまず、3名の紹介をし、介助事業所GENKIコーナーであと1名の紹介します。

## 新人より自己紹介

### 法人事務局 佐藤 カヨ子

初めまして、佐藤カヨ子です。二分脊椎症という先天性障害です。松葉杖で歩いていた時期もありますが、10年程前から車椅子を使っています。趣味は水泳とガーデニング、これから一緒に活動をしていきたいと思っています。



### 小規模作業所 GENKI 宇山 大輔

自己アピールは長所、段取りよく生活できること。短所、何回も同じミスをすることです。趣味は読書と釣りはです。特に面白い本は原作が司馬 遼<sup>しは せん</sup>の三国志です。この職場でしたい仕事は、パソコンで会報の原稿書きを学びたいと思います。それに、同じ悩みを持つ仲間の話を聞いてあげたいです。



### 介助事業所 GENKI 中前 裕樹

若い若いと思っていたら、もうすぐ半世紀がたとうとしています。3年前に契約ヘルパーとしてスタートした中前裕樹といいます。パソコンは扱えますが、身体は老化が進んでおり、ササッと行動できなくなりました。



## 介助事業所GENKIコーナー

左のページでを新人を紹介しましたが、一人はとてもシャイなので、インタビュー形式でちょっとクローズアップしながら紹介します。

名 前：西平 有希 (にしひら ゆき)

ここで働く前は？

：調理製菓専門学校行ってました！学校では、日本料理・西洋料理・中国料理・製菓と毎日調理に励んでました。

特 技：すぐ寝る事です。

休日は：友人と買い物に行ったり、家でまったりしてます。最近は岩盤浴にはまっています。

目 標：仕事に早く慣れる事です。



ここで皆さんに、西平さんの学生時代の  
作品を紹介したいと思います☆



卒業料理展の時に作った作品で、『ピンパン』と言います。

野菜とゼラチンを使って龍と鳳凰（ホウオウ）を描きました！

注：ちなみにこれは、食べられません。

— 本人より抱負 —  
福祉の仕事についてまだ間もないですが、一生懸命頑張っていきたいと思いますのでこれから、よろしくお願い致します！！



# 活動報告

## 4月

- 15日 北九州市新規職員研修 講師  
 22日 障団連常任委員会  
 ピアカウンセリング委員会  
 電話会議 (林)  
 27日 ヘルパー定例会議開催  
 29日 黄色いレシート  
 キャンペーン贈呈式  
 (大石・山中)  
 30日 虐待防止ワークショップ開催



## 5月

- 19日 街づくりネットワーク  
 (山中・佐藤)  
 23日～ 全国自立生活センター協議会総会  
 25日 (永松・小川・大石)  
 24日 わっしょい百万夏まつり準備会  
 (山中・成田)  
 25日 あかつき会評議委員会 (林)  
 26日 身障協会理事会 (林)  
 28日 北九州市手をつなぐ育成会評議委員会  
 (林)



## 6月

- 7日 当法人理事会開催  
 12日 北九州市障害福祉団体連絡協議会総会 (永松・大石)  
 19日 当法人第9回定期総会開催  
 20日 メインストリートプログラム開催  
 26日 QSK総会 (大石・林)

毎月11日に幸せの黄色いレシートキャンペーン

# 御寄付をいただいた皆様

2010年 6月30日現在

〔個人〕 和田 輝幸様 富永 敬市様 開原 靖江様  
三上 敬子様 菅野 充誠・京子様

## 募金・寄付金に御協力ありがとうございます

募金や寄付金にご協力いただいています皆様に深くお礼申し上げます。

北九州自立生活センターは、任意団体として活動を始めて、皆様のお力添えをいただきつつ、今やNPO法人として事業に取り組むに至りました。この間何かと駆け足で進めてきたこともあり、未整備のため皆様へ失礼やご迷惑をおかけしていることがございます。深くお詫び申し上げ、ひとつひとつ改善に努めてまいりますので、ご容赦と引き続きのご支援をお願い申し上げます。募金箱の設置につきましても改めてお願いをして参りますので、よろしく願い申し上げます。また新規でご協力いただける方がありましたら、お手数ですがお知らせいただけるとうれしく思います。一人でも多くの方々に、「共に支えあって生きる」ということにご賛同いただけますよう重ねてお願い申し上げます。

### 編集後記

今回、お気づきのことと思いますが、新人のメンバーに記事を書くことに力を入れてもらっています。

ところで、夏といえばお祭りですが、今年も当センターはわっしょい百万夏祭りに出店します。よかったらお立ち寄りください。最後に暑い日が続きますが、熱中症に気をつけてお過ごし下さい。

大石

# 会員を募集しています!

<b>賛助会員</b>	<b>正会員</b>	<b>購読会員</b>
年会費 <b>(一口)5000円</b> 資金面で協力を していただける方	年会費 <b>3000円</b> 積極的に活動に参加 していただける方	年会費 <b>(送料込)200円</b> 定期的に本誌をご購読 していただける方

センターの活動にご協力いただける方を募集しております。また、会費は私たちの大きな資金源の1つとなっております。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

※会員の方には、この会報「GENKI」を3か月に1度お届けしています。

入会方法は、このページの末をご覧ください。

## 寄付のお願い

私ども特定非営利活動法人北九州自立生活センターは、障害者が自立するために色々な事業を行っております。その事業を行うため、皆様方に寄付をお願いしております。施設から地域へ出てくる障害者が少しずつ増えています。その人達の支援をするためにも資金が必要となっております。より多くの障害者が地域でありのままの暮らしが出来るように、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご入会、ご寄付はセンターに御来所いただくか、  
郵便振替または銀行振込を御利用いただければ幸いです。

郵便振替の方は

〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目5-19

池上ビル1F

口座番号 ; 01720-1-25526

銀行振込の方は

(トクヒ)キタキョウショウジ リツセイカクセンター

特定非営利活動法人 北九州自立生活センター

